

日常生活用品について

大阪樟蔭女子大〇一棟宏子 本田節

目的 前報に引続き、本報では日常生活用品（家事サービス用品151品目のほか、個人用品、生理衛生用品、だんらん用品、対外行為関連用品など173品目、合計324品目）について同様な考察を行う。

方法 前報と同様。

結果 (1)日常生活用品は1世帯当り平均236品目保有されているが、このうち保有率が80%をこえるものは159品目であり、保有品目の67%に相当する。また、保有品目数の度数分布をみると、220~259品目保有している世帯が全体の6割を占めている。したがって、世帯による保有数の差は客、予備用品ほど大きくはないが、重回帰分析によると、その差は主に家事用品とだんらん用品、個人用品の保有状況に左右されていることがわかる。

(2)保有品目数と世帯の属性について相関分析を行なった結果、家族の趣味数、住戸規模、家族人数、収入、客室の有無、納戸の有無に有意差が認められた。(3)居住者の日常生活用品に対する必要性評価の傾向をみると、半数以上が（ぜひ必要）と答えている品目は125品であり、それらは保有率80%以上のものがほとんどである。保有実態と必要性評価の相関関係は高く、互いに似た傾向を示しているが、とくに、両者のギャップが大きいものは趣味用品、スポーツ用品、娯楽用品、書籍類、装飾用品、および各室備品、事務用品があげられる。(4)評価において（ぜひ必要）と答えている品目数は保有の現状とはほとんど関わりなくほぼ一定した範囲内にあるが、（なくてよい）は世帯による差が大きく、実際の保有品目数とかなり高い相関関係を示しているのが注目される。